

ランス美術館コレクション

風景画のはじまり コローから印象派へ

2020年度-

17世紀にはじまる自然や街の風景のみを描いた「風景画」において、印象派はひとつの頂点に達しました。その素地をととのえたのは、各地の風景を訪ねて廻ったカミーユ・コロー(1796-1857)や自然の姿に魅了されたバルビゾン派の画家、彼らに影響を受け、さらにクロード・モネ(1840-1926)を屋外制作へ導いたことで知られるウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)たちでした。



本展では、ランス美術館所蔵のコロー、ブーダン、モネ、カミーユ・ピサロ(1830-1903)、ピエール=オーギュスト・ルノワール(1841-1919)らの作品から、近代フランスにおける「風景画」の確立について考察します。

作品構成：

- 油彩 約50点
- 版画 約20点

会期・会場：

2020年度

- 北九州市立美術館 ... 2020年7月25日(土)～9月6日(日)
- 島根県立美術館 ... 2020年9月12日(土)～11月3日(火・祝)

企画・監修：

- ランス美術館

<画像>

クロード・モネ (1840-1926)

ベリールの岩礁

1886年

油彩/カンヴァス

65.6 x 81.5cm

Inv. 907.19.191

© MBA Reims 2019/Photo : C.Devleeschauwer

ご注意：掲載されている画像・写真・テキストを含むすべてのコンテンツに関する著作権は株式会社ブレイントラストに帰属するか、または使用が許可されており、日本の著作権法および国際条約によって保護されています。特に断り書きのある場合を除き、これらを許可なく利用・複製・再配布・出版することを禁じます。

© 2020, Brain Trust Inc. All rights reserved.